

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

β

# 国 語

( 200点 )  
( 80分 )

## 注 意 事 項

- 1 解答用紙に、正しく記入・マークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 2 この問題冊子は、46 ページあります。問題は4問あり、第1問、第2問は「近代以降の文章」、第3問は「古文」、第4問は「漢文」の問題です。  
なお、大学が指定する特定分野のみを解答する場合でも、試験時間は80分です。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

## 第1問

次の文章は、みたむねすけ見田宗介『社会学入門』の一部である。これを読んで、後の問い(問1～5)に答えよ。(配点 50)

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(見田宗介『社会学入門』による)

(注)

- 1 レイチェル・カーソン——アメリカの海洋学者(一九〇七～一九六四)。自然の生態系の中で起こる食物連鎖によって、人間にとって有害な物質が濃縮され、人間の健康を脅かす可能性を指摘した。
- 2 石牟礼道子——日本の作家(一九二七～二〇一八)。水俣病<sup>みなまたびょう</sup>患者に取材し、数々の著作を残した。
- 3 ワールド・ウォッチ研究所——アメリカの民間の環境問題研究所。
- 4 リースマン——アメリカの社会学者(一九〇九～二〇〇二)。

問1 図1a「ロジスティックス曲線」及び図1b「修正ロジスティックス曲線」にまつわる説明として最も適当なものを、次の各

群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 

1
---

 ・ 

2
---

 。

ロジスティックス曲線

1

- ① ガラス容器で繁殖する微生物は、ガラス容器の素材的な特異性ゆえに、曲線型の「人口」動態を描く。
- ② 現代の生物学では、「人口」動態の描くS字型の曲線は幻想に過ぎないことがすでに立証されている。
- ③ 大爆発期を経た動物の繁殖は、大陸の環境条件の中で臨界に達し、定常平衡系に入るのが常である。
- ④ S字を引き延ばした形になる微生物の「人口」動態は、その加速度的な増加の永続性を示している。
- ⑤ 環境の攪乱要因を排した条件下での微生物の「人口」動態を俯瞰すると、緩やかな曲線が確認される。

修正ロジスティックス曲線

2

- ① 人間以外の高等生物が自然環境の中で生きるとき、「人口」動態のS字はいびつな形となる。
- ② 特殊にあつらえられた環境でもないかぎり、高等生物の「人口」動態は、どこかで下降することが多い。
- ③ ロジスティックス曲線とは異なり、「人口」が頂点に達した後に「爆発以後期」へと移る。
- ④ 修正ロジスティックス曲線は、それに懐疑的な研究者もおり、まだ学問的な定説とは言えない。
- ⑤ ロジスティックス曲線同様、「人口」動態のピーク期以降は、リバウンドの減少が見られる。

問2

本文に述べられる、「人間の歴史の中」における「近代」という時代」にまつわる説明として**適当でない**ものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 

3
---

。

- ① 近代は、地球という有限な空間上において、人間という動物種がその環境によく適合し、加速度的な「人口爆発」を起こした時代であったといえる。
- ② 近代は、文明の精髓である、自然征服の力学、貨幣経済、都市という形態が工業生産力として結集し、それが全域化し、原理化していった時代であったといえる。
- ③ 近代は、この時代における広大な中心部分に限定するなら、人間一人ひとりの生活水準が量的にも質的にも向上しつづけた時代であったといえる。
- ④ 近代は、この大爆発期の内部を生きる人間たちに、自らの進歩と繁栄が無限に展開していくものであるという幻想を抱かせた時代であったといえる。
- ⑤ 近代は、自分たちの加速度的な増殖には絶対的な「限界」が存在するということを、一部の篤志家にしか自覚させられなかった時代であったといえる。

問3

図2にまつわる説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

4

- ① 近代に加速度的に増殖した人間は、文明期以降のエネルギー消費量の急激な増加に気づくこととなったが、ここから必然的に生じる、人間文明に「限界」を感じる危機意識は、結果として全世界に共有された。
- ② 人間文明をこれからも存続させたいならば、その爆発的な成長の変曲点に在ることを自覚し、巨視的に見れば最近といえる時代に急激に消費されるようになった地球上のエネルギーの枯渇を防がねばならない。
- ③ 現代社会において主題化された「限界の問題」は、高度成長の中心部分にあった諸国の人間たちの経済的な関心に基づく危機意識であり、そこに環境問題への視座は希薄であったといわざるをえない。
- ④ 人間文明の推移がロジスティクス曲線かそのヴァリエーションを描くことになれば、その枯渇が危ぶまれる地球上のエネルギー資源が、ますます急激に消費されていくことになってしまう。
- ⑤ 人間がこのまま成長を続けていくかぎり近い将来に人間文明に不可欠の物質資源のいくつかが地球上から枯渇するという「ローマ・クラブ」の発表は、結局はローカルな範囲で注目されただけに終わってしまった。

問4 リースマンについて述べた説明として適当なものを、次の①～⑥のうちから二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。解答番号は 

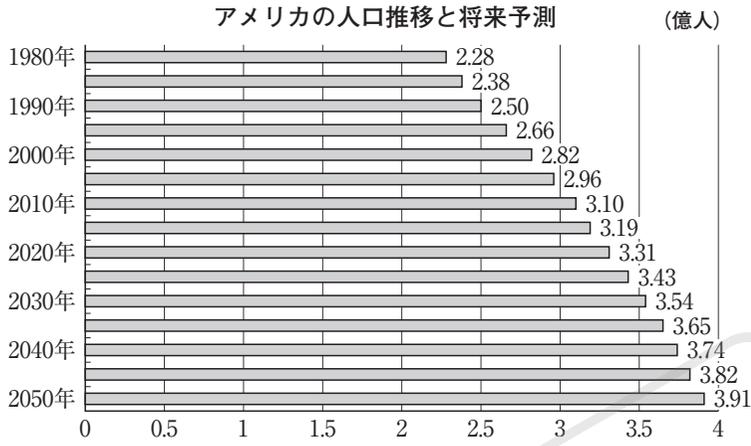
5
---

・

6
---

。

- ① 統計的な数字を駆使して現代社会学の基礎を築いた人物である。
- ② 社会の性格を類型的にしか見ることのできなかった人物である。
- ③ 世界中の国々における人口増加率の減少を予言した人物である。
- ④ ロジスティックス曲線を土台に社会を論じた草分け的人物である。
- ⑤ 社会学者としての鋭利なセンスを有していた人物である。
- ⑥ 確かな感覚をもって全人間史を見渡すことのできた人物である。



【参考資料】(国際連合 人口統計より)

問5

左の【参考資料】は、アメリカの人口推移と将来の人口予測についてまとめたものである。この図に示される現代のアメリカについての情報を踏まえるなら、**図3a**、**図3b**及び本文から読み取れる内容に鑑みて成り立つ意見はどれか。最も適当なものを、後の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

7

① 人口の増加も著しく、ロジスティクス曲線でいうところの爆発以後期へ移行する気配の見られなかった二〇世紀のアメリカも、実は人口の増加率は低下傾向にあった。これは二一世紀前半にはさらに低くなると考えられていたが、実際にはその予測は正しくなかったといえる。

② 二〇世紀の終りに至るまで旺盛に増加していると思われたアメリカの人口も、実は減少していたことがわかる。これとは対照的に今日の人口は上昇傾向にあるわけだが、当時の社会学理論がそれを予測することができなかったという事実から、社会学という学問の難しさが理解できる。

③ 旺盛に増加し続ける人口とは裏腹に、二〇世紀のアメリカでは人口増加率が減つていようと思われるが、それは一九五〇年代にのみ見られた一過性の現象であつた。この事実から、現代のアメリカにおける人口と人口増加率の上昇傾向への兆しは、この時代にすでに顕在化していたと考えられる。

④ 二〇世紀には明確なスローダウンを見せていたアメリカの人口増加率であつたが、二一世紀初頭にはさらに半減し、平衡状態へと入つた。このことを踏まえるなら、今日の上昇傾向を予見していたリースマンの洞察力は、いまだもつてして学ぶべきところがあると評価せざるをえない。

⑤ 第三局面に移る気配のないように思われた二〇世紀のアメリカの人口総数も、一九七〇年頃からロジスティクス曲線の変曲点に入ることになった。この傾向がアメリカに住むすべての人々に該当するものである以上、今日の上昇傾向は、社会的な観点からは驚異的といふべきである。

(下書き用紙)

国語の試験問題は次に続く。

Sample